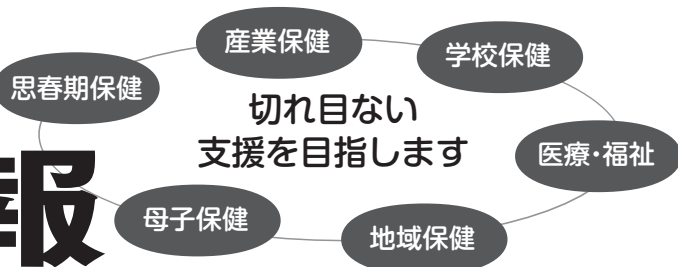




WEB版もあります
左記QRからどうぞ！



2021年(令和3年)10月1日発行



一般社団法人
日本家族計画協会

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館
電話03(3269)4727 FAX03(3267)2658 https://www.jfpa.or.jp

マルトリ予防®のセミナー

第2弾が登場！

詳細は裏面へ

本セミナーでは子どもにマルトリートメント(マルトリ)をしてしまう養育者に焦点を当て、支援者としてどう寄り添うかを考えていきます。

今回講師として講義をしてくださる先生方に、今後の展望とセミナーへの熱意を語っていただきました。

大切なのは養育者との信頼関係を築くこと

第2回 トライアル&エラー 子育てに寄り添うセミナー



担当

講義 1

講義 3 (対談)

仙田 昌義 先生

総合病院国保旭中央病院 小児科部長
家族支援チーム (FAST) 代表
千葉大学附属法医学教育研究センター特任研究員

連携をとりながら最前線で支援する大切さ

医療機関での児童虐待対策については、医療者個人だけで動くのは限界があります。そこで、総合病院国保旭中央病院では院内虐待対策チームである家族支援チームFAST (Family Support Team) を立ち上げ、チームで対応するようにしています。これからも院内の関係者だけでなく市区町村、児童相談所、保健所、教育機関、警察などと連携を組み、支援に当たっていきます。

セミナーではマルトリをしてしまう親が抱えている問題、背景について触れつつ、マルトリが起らないために、また起こった場合にどうすればいいのか。想定される事例を踏まえて講義をします。

世の中にはマルトリ、虐待に関することがこの瞬間にも起きていて、子どもたちが苦しんでいます。そんな時は自分は専門外だからと目を背けるのではなく、まずは話を聞いてみる。難しければ、担当部署につなぐだけでもしてほしいと思います。目を背けてしまうと、もしかしたら問題を見逃してしまうかもしれません。また、大切なのは一人でどうにかするのではなく、問題を見つけたら各関係者と連絡をとり、みんなで解決をしていくこと。セミナーではその第一歩を踏み出すきっかけになるものにできたらと思います。

講義3でなんとおふたりの対談が…!

どうすればいいか困っている親への支援とは

世の中には叩きたくないのに叩いてしまう親、目の前の子どもを持て余してつい怒鳴りつけている親など、支援を必要とする家族はたくさんいます。そういった家族は子どもとの接し方に困り、思い通りに動いてくれない子を怒ることが多くなってしまいます。叩いたり怒鳴りつけたりせずどう寄り添い対応していったらいいのかを考えていくことが大切だと思います。

支援者の中でも子育てをしている家族とどう接したらいいのか分からず、困っている方は多いかと思ひます。そこで家族と専門職がどう信頼関係をつくって支援していくか、相談しやすくするにはどうしたらいいのか、関係づくりに焦点を当てて講義を進めていきます。

子育てに悩む養育者は、不安や怒りの感情に押し流されてしまっているケースが多くあります。そんな時に支えになるのは親身に寄り添ってくれる支援者です。しかし、支援者側の皆さんも「うまく信頼関係が築けない」「対象者と関わることに戸惑う」「どんな風に声を掛けたらいいか分からない」などの気持ちがあると思います。そんな悩みを持つ全ての方に受けていただきたい講座です。支援するときの立ち位置を確認することができ、これからの支援のヒントになることでしょう。養育者との信頼関係を築き、養育者自身が自分で立つことができ、子どもの権利を尊重する関わり方を皆さんと学ぶ場にできれば私もうれしいです。今後の支援の実践につなげていただけたらと思っています。



担当

講義 2

講義 3 (対談)

高祖 常子 先生

認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク理事
子育てアドバイザー
キャリアコンサルタント

長年のご経験が聞けるチャンスは今!

ありのままの自分を見せて寄り添う



担当

講義 4

渡辺 久子 先生

乳幼児・児童・思春期精神科医
LIFE DEVELOPMENT CENTER 渡辺醫院副院長
世界乳幼児精神保健学会理事
日本乳幼児精神保健学会会長

新型コロナウイルスの感染が拡大し、親のストレスが増す中、子どもは親の苦しみを静かに見つめながら小さな胸を痛めています。コロナも地球温暖化危機も、命を最優先せよとの自然界からの警告です。厳しい自然を生き延びた日本人には一枚岩で地域の子をかわいがる親心があります。戦後の競争社会で喪われかけた日本の子育て魂を今取り戻したいものです。

子どもは生まれながらに社会脳をもち、それは胎内から発達します。誕生直後から敏感に周りの雰囲気を感じ、対人関係にアンテナをはります。わきあいあいの人の輪もわくわく感もこころの発達を促します。ふれあい、思いやり、力をあわせて共に挑戦することは、人の生まれ持つモラル感であるといわれます。心の絆は言葉や理屈ではなく、3密の中でふれあい、声や表情や動きにより伝達される直観的な真心により生まれます。

わが子を産み育てるお母さんこそ、その子の唯一無二のより所です。日本は母親を尊重する社会制度がまだまだ不十分です。虐待の疑われるケースのほとんどは母親の問題ではなく、そこまで母親を迫りつめる周囲の関係性の問題です。今DV、虐待等のリスクが増し、外から見えにくくなっています。母親が「あの人に相談しよう。きっと私のつらさを本気でわかってくれる」と思う時、その人は育児支援のプロといえるでしょう。それには己を常にふりかえり内省する謙虚さと、親子のために動く実践力が求められます。



第2回

トライアル&エラー 子育てに寄り添う セミナー

～どうする?養育者との
信頼関係の築き方～



後援

公益社団法人 日本助産師会

日本乳幼児精神保健学会

特定非営利活動法人 児童虐待防止協会

講師

総合病院国保旭中央病院
小児科部長

仙田 昌義

認定 NPO 法人児童虐待防止
全国ネットワーク理事

高祖 常子

LIFE DEVELOPMENT CENTER
渡邊醫院副院長

渡辺 久子

対象者 ◆ 医師、保健師、助産師、看護師、保育士、教員、養護教諭、その他子育て支援に携わる方

配信期間 2021年 12月3日(金) 12:00
～12月17日(金) 23:59

受講料 11,000円(税込)

詳細とお申し込みはこちら

締切 11月5日(金)



表

2～4歳頃

親子でイヤイヤ期を乗り切ろう



小児科医が語る 子育てワンポイント
普段から少しでもいいので、子どもと向き合う時間をつくって
みませんか。
イヤイヤがたまってきたら、6秒黙って待ちましょう。
心配なことがあったらいつでも気軽に小児科医に相談しましょう。

●著者：総合病院国保旭中央病院 小児科 医師 仙田昌義
●監修：言語聴覚士 宇井円／金屋麻衣

2～4歳頃

親子でイヤイヤ期を
乗り切ろう

200453

表

0・1歳頃

子どもとの関わり方ヒント



小児科医が語る 子育てワンポイント
親子でいつも同じように「遊ぶ」「食べる」「寝る」が
できていますか？
医師は医師としての仕事ではありません。
子どもに関わることで困ったら、気軽に相談に来てください。

●著者：総合病院国保旭中央病院 小児科 医師 仙田昌義
●監修：言語聴覚士 宇井円／金屋麻衣

0・1歳頃

子どもとの
関わり方ヒント

200452

関連
の
新作健康メモ
ご紹介

病院の小児科医、言語聴覚士、公認心理師が集結して作成。
ノウハウを生かし、子育てのヒントをまとめました。



著者

総合病院国保旭中央病院 小児科

医師 仙田昌義

言語聴覚士 宇井円／金屋麻衣

公認心理師 富岡美帆／下地里枝

【定価】1,430円(税抜価格1,300円) 【仕様】A4判/両面カラー/1冊50枚組 ※名入れ印刷についてはお問い合わせください

Clickマークを押すとリンク先に飛びます

JFPA「メルマガ会員」募集中!
あなたの保健指導に役立つ情報を定期的にお届けします。

